

【各論】 4. 糖尿病と結核

山岸 文雄 *Fumio Yamagishi* (国立病院機構千葉東病院名誉院長)

● key words 肺結核／糖尿病／免疫抑制宿主／高齢者／結核治療

はじめに

結核はHIV、マラリアと並び、世界三大感染症の1つに数えられており、世界人口の約1/3が結核菌に感染していると推測されている。WHOの報告によると、2015年には年間約1,040万人が結核を新たに発病し、約180万人が死亡し、そのうち40万人はHIVにも感染していたとされている¹⁾。結核対策だけでなく、HIV対策の重要性も求められている。

わが国の2015年における新登録結核患者数は18,280人で、前年の19,615人より1,335人(6.8%)減少した。結核罹患率は人口10万対14.4と、前年の15.4より1.0(6.5%)減少した²⁾。都道府県別結核罹患率をみると、10.0未満の都道府県は最も低い山形県の7.3をはじめとして9道県を数え、最も罹患率が高い大阪府の23.5との間には約3倍という大きな地域格差が認められる(表1)²⁾。2010年に長野県が全国で初めて罹患率10以下となったが、わずか5年の間に9道県に増加している。また2010年の大阪府の罹患率は29.9で、同年の罹患率20以上の都道府県は8都府県であったものが、2015年には大阪府のみとなっている。また大都市の罹患率は高いことが多く、政令指定都市でみると大阪市34.4、名古屋市22.4、堺市22.0、神戸市21.3、東京都特別区19.1、北九州市18.9などである。わが国では結核罹患率の減少速度の鈍化が指摘されて久しいが、厚生労働省は2016年に「結核に関する特定感染症予防指針」の一部改

表1. 都道府県別結核罹患率(2015年)

	都道府県名	罹患率
罹患率の低い5道県	山形	7.3
	長野	8.3
	宮城	8.5
	秋田	8.5
	山梨	8.7
罹患率の高い5都府県	大阪	23.5
	兵庫	17.1
	東京	17.1
	大分	17.1
	奈良	16.8

(文献2より引用)

正を行い、具体的な成果目標の1つとして、2020年までに結核罹患率を人口10万対10以下とすることを挙げている³⁾。一方、欧米先進国の結核罹患率は軒並み10.0以下であり、2014年で比較すると日本の罹患率15.4は、米国(2.8)の5.5倍、カナダ(4.4)の3.5倍、オランダ(4.8)の3.2倍と、依然として日本は結核の中蔓延国である²⁾。

最近の結核患者の特徴として、高齢者結核の増加が挙げられる。新登録結核患者のうち65歳以上の高齢者は66.6%、80歳以上の者は38.3%であり、80歳以上の罹患率は人口10万対70.8であった²⁾。これら高齢者結核患者の多くが、戦前・終戦直後の結核高蔓延時代を経験して濃厚に結核感染を受け、加齢とともに体力および免疫力が低下し、また余病を併発して、内因性再燃により結核を発病すると